

令和8年度 第2回広島市感染症対策協議会

【日 時】 令和8年5月18日(月) 19:00~20:00

【場 所】 広島市役所 14階第7会議室

【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、大毛 宏喜、石川 暢久、吉岡 宏治、高橋 宏明、佐藤 貴
金子 朋子、増田 裕久、梶梅 輝之、大橋 信之、長岡 義晴、岡野 里香

1 感染症に関する最近の情報

(1) 国内における麻しんの発生状況について (資料1 P 1 ~ P 46)

令和8年第18週(4月27日~5月3日)までに診断された国内における麻しんの累積報告数は462例であり、令和2年以降で最多となるペースで推移している。

特に東京都においては、都内小学校で児童41名及び教職員6名、計47名の集団感染が発生するなど、第18週時点の報告数は226例に達し、全国の約半数を占めている。

こうした状況を踏まえ、国は、令和8年4月24日に事務連絡を発出し、麻しん対策に関する各種資料の周知・活用を求めるとともに、地方公共団体や国民に対し、感染拡大防止への対応を改めて呼びかけた。

また、「保健所における麻しん対策・対応ガイドライン」を改訂し、近年の発生状況や実務上の課題を踏まえた内容の整理・充実を図っている。

本市としては、引き続き発生動向を注視するとともに、発生時対応体制を改めて確認するなど、迅速な対応が行えるよう、平時からの備えに努めていくこととする。また、引き続き定期接種対象者に対して接種勧奨を行うこととする。

(委員意見)

- ・引き続き今後の発生動向に注視する必要がある。

(2) ハンタウイルス感染症事例等について (資料1 P 47 ~ P 55)

令和8年5月2日、4月に南米を出航し、南大西洋上を航行中のクルーズ船におけるハンタウイルス感染症の発生がWHOに報告された。5月4日時点でハンタウイルス感染症の症例7例(確定例2例、疑い例5例)が報告され、うち3例が死亡している。

ハンタウイルス肺症候群は、感染症法において四類感染症の全数把握対象疾患に定められている。ハンタウイルスは、本来げっ歯類が保有するウイルスであり、主にげっ歯類の唾液や排泄物との接触や排泄物を含む粉塵の吸入、排泄物で汚染された環境への曝露でヒトに感染する。基本的にヒトからヒトへ感染するものではないが、例外的に、アルゼンチンとチリでハンタウイルスの一種であるアンデスウイルスのヒト-ヒト感染事例が報告されている。

本事例を踏まえ、検疫所は「南米に滞在歴があり、発熱、咳など体調に異常がある方」や「南米での滞在中、ネズミ等のげっ歯類と接触のあった方」に対し、入国時に申し出るよう検疫時やホームページなどで注意喚起を行っている。

国は、感染者と接触者の管理など適切な対応を行うことにより伝播は抑制できることから、国内でヒト-ヒト感染により感染が拡大する可能性は低いとし、国民に対して冷静な対応を呼びかけている。

(委員意見)

- ・当該事例における感染経路等の調査状況について、今後の動向に注視する必要がある。

(3) 急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスについて（資料1 P 56 ～ P 60）

令和7年4月7日、流行しやすい急性呼吸器感染症の発生動向の把握、未知の呼吸器感染症が発生し増加し始めた場合の迅速な探知等を目的として、急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスが開始された。ARIは、急性の上気道炎又は下気道炎を指す病原体による症候群の総称であり、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症、RSウイルス感染症など複数の病原体による疾患を統合的に把握することが可能である。

本市においては、ARIの定点当たり報告数の推移や病原体検出情報について、ホームページや感染症週報などを通じて、医療機関や市民に対し情報還元を行っている。

定点当たり報告数は、第47週（11月17日～11月23日）と第6週（2月2日～2月8日）にピークを認め、二峰性の流行を示した。特に、冬季においてはインフルエンザの流行状況と類似した傾向がみられ、ARIサーベイランスが既存の個別疾患サーベイランスと整合した動向を示していることが確認された。

また、ARI病原体定点医療機関から提出された検体の病原体検出情報では、通年でライノウイルス／エンテロウイルスを検出されるなど、継続的な流行が確認された。加えて、第17週～第35週にかけて、パラインフルエンザウイルス3型及び4型の流行がみられるなど、季節的な病原体の推移が確認された。

特定疾患に限定しない呼吸器感染症全体の包括的な発生動向把握及び継続的な監視・分析が重要であることから、本市としては、医療機関や市民に対しホームページ等を通じて引き続き情報提供を図るとともに、より効果的な情報還元を努めていくこととする。

(委員意見)

- ・今後も継続的な調査を実施することにより、有用な情報が得られることを期待する。

2 4月の定点把握対象感染症発生状況《公開》（資料2、3）

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病名	令和8年4月分	令和8年5月分
		報告日 4/6～5/3	報告日 5/4～5/12 現在
2類	結核	9人 (結核 8人, 潜在性結核 1人)	1人 (結核 1人, 潜在性結核 0人)
3類	腸管出血性大腸菌感染症	4人(1人(4/9), 1人(4/15), 1人(4/16), 1人(4/25))	1人(5/7)
4類	E型肝炎	1人(4/23)	
	日本紅斑熱		1人(5/8)
	レジオネラ症	2人(1人(4/17), 1人(4/25))	2人(1人(5/7), 1人(5/11))
5類	ウイルス性肝炎	1人(4/27)	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1人(4/14)	
	侵襲性肺炎球菌感染症	1人(5/1)	
	梅毒	13人(1人(4/6), 1人(4/13), 1人(4/15), 1人(4/20), 4人(4/21), 1人(4/22), 1人(4/24), 1人(4/27), 1人(5/1), 1人(5/2))	1人(5/9)
	播種性クリプトコックス	1人(4/13)	
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1人(4/21)	1人(5/8)
	百日咳	4人(2人(4/28), 2人(5/2))	

() は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 令和8年7月21日(火) 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：4月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症（月報対象）の長期的変動

1 患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、4月は8,579人であった。そのうち、急性呼吸器感染症（ARI）を除いた患者報告数は1,015人で、前月比0.52と減少した。

ヘルパンギーナは大きく増加、咽頭結膜熱は増加、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）、RSウイルス感染症、水痘、急性呼吸器感染症（ARI）はやや増加、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しんはほぼ横ばい、感染性胃腸炎はやや減少、インフルエンザは大きく減少した。

(2) 特記事項

- 令和7年4月7日（2025年第15週）から定点把握疾患となった急性呼吸器感染症（ARI）は、増減を繰り返しながら推移し、2025年第47週（11月17日～23日）に定点当たり91.8人と最多の報告があった（図）。また、広島市衛生研究所によるARI病原体サーベイランスでは、延べ849検体（うち陽性566検体）を検査し、検出数が最も多かったウイルスはライノウイルス201件で、次いで新型コロナウイルス90件、A型インフルエンザウイルス86件であった（第18週現在）。

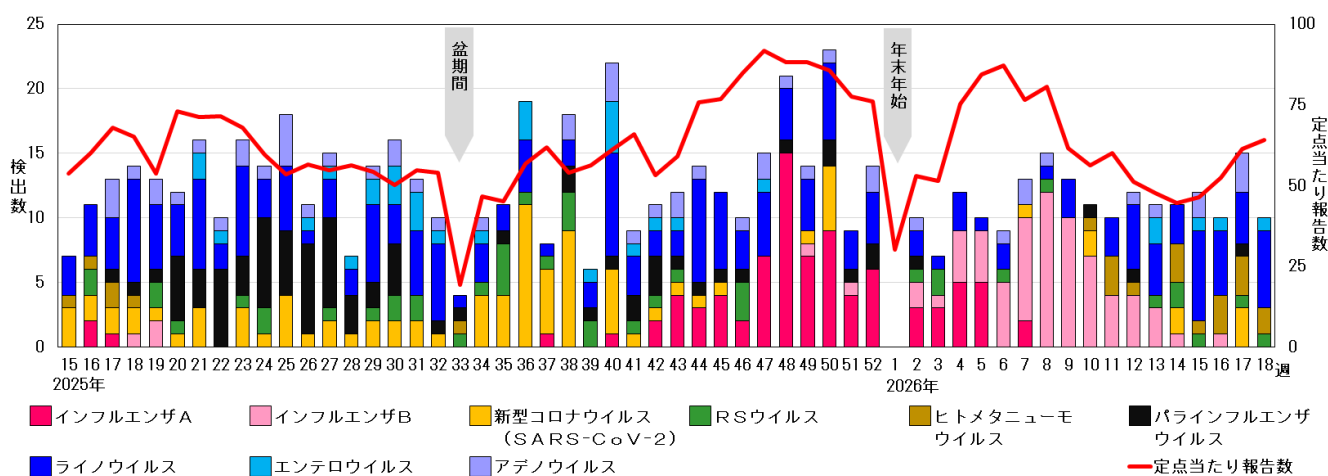


図 広島市におけるARIサーベイランス病原体検出状況及び急性呼吸器感染症（ARI）定点当たり報告数の推移（2025年第15週～2026年第18週）

- 感染性胃腸炎は減少傾向だが、4月以降に高齢者施設等で集団発生が2件報告されており、集団生活の場では特に注意が必要である。
- ヘルパンギーナは、夏季を中心に流行するウイルス性の感染症で、4月中旬から例年より多い状態となっている。手洗いの励行、オムツの適切な処理などの感染予防対策が重要である。
- 日本紅斑熱は第19週に今年初めての報告があった。感染を予防するためには、山や草むらに入るときは、長袖、長ズボンを着用するなど肌の露出を避け、ダニ類に刺されないようにすることが重要である。
- 全国の発しんの累計報告数は5月3日時点で462件と、2017年以降で最も多かった2019年の同時期473件に次いで多い。

(3) 4月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核9件（患者：8件、潜在性結核：1件）
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 4件
- 4類感染症：E型肝炎 1件、レジオネラ症 2件
- 5類感染症：ウイルス性肝炎 1件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2件、侵襲性肺炎球菌感染症 1件、梅毒 12件、播種性クリプトコックス症 1件、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1件、百日咳 3件

(4) 今後の流行予測

ヘルパンギーナ・・・【流行始まり】

2 検査情報

4月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
流行性角結膜炎	アデノウイルス 17 型	1 月	1 人
急性脳炎	ヒトヘルペスウイルス 6 型	2 月	1 人
	※ ライノウイルス	3 月	1 人
	※ ノロウイルス GII		

※:複数病原体検出例

1 人の患者からアデノウイルス 17 型が検出された。

また、全数把握対象疾患である急性脳炎から、ヒトヘルペスウイルス 6 型、ライノウイルス及びノロウイルス GII が検出された。

3 感染症法 5 類全数把握薬剤耐性菌感染症患者からの分離菌株解析結果 (2025. 4~2026. 3 月分)

カルバペネム耐性腸内細菌目細菌 (CRE) 感染症患者

届出年月	年齢	区	症状	分離検体	菌種	カルバペネマーゼ遺伝子※1
2025 年 4 月	79	南	尿路感染症、創感染	腎盂尿、膿	<i>Enterobacter cloacae</i>	<i>bla_{IMP-6}</i>
2025 年 6 月	66	安佐南	尿路感染症、発熱	尿	<i>Escherichia coli</i>	検出せず
2025 年 8 月	85	東	胆嚢炎	胆汁	<i>Escherichia coli</i>	<i>bla_{IMP-6}</i>
2025 年 8 月	87	中	肺炎	喀痰	<i>Klebsiella pneumoniae</i>	<i>bla_{IMP-6}</i>
2025 年 11 月	86	中	胆嚢炎	胆汁	<i>Klebsiella pneumoniae</i>	検出せず
2026 年 2 月	80	安佐北	尿路感染症	尿	<i>Enterobacter</i> 属菌	検出せず
2026 年 2 月	78	南	肺炎	喀痰	<i>Escherichia coli</i>	検出せず

※1 検査対象カルバペネマーゼ遺伝子型 : KPC, IMP, NDM, VIM, OXA-48, GES, KHM, SMB, IMI

2025 年 4 月から 2026 年 3 月の間に届出があった患者から分離された菌株 7 株の解析を実施した。カルバペネマーゼ産生腸内細菌目細菌は 3 株で、すべて *bla_{IMP-6}* を保有していた。他の 4 株はカルバペネマーゼ遺伝子を保有していなかった。

【参考】ARI 病原体サーベイランス検査結果 (広島市感染症週報より)

感染症発生動向調査に基づくARI病原体定点医療機関からの搬入分のみ掲載

検体採取週	検査検体数	陽性検体数*	AHP1009 インフルエンザウイルス	AH3 インフルエンザウイルス	B型インフルエンザウイルス (ヒクトリア系統)	B型インフルエンザウイルス (山形系統)	新型コロナウイルス (SARS-CoV-2)	A型RSウイルス	B型RSウイルス	ヒトメタニューモウイルス	パラインフルエンザ ウイルス1型	パラインフルエンザ ウイルス2型	パラインフルエンザ ウイルス3型	パラインフルエンザ ウイルス4型	ライノウイルス	エンテロウイルス	アデノウイルス
第14週	13	10		1			2	1	1	3					3		
第15週	14	9							1	1					7	1	2
第16週	15	7		1						3					5	1	
第17週	15	9					3		1	3			1		4		3
第18週	9	9						1		2					6	1	

* 同一検体からの複数ウイルス検出例を含む (検査: 広島市衛生研究所)

5類感染症定点情報
(令和8年4月解析分)

1. 週報対象(第15週～第18週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	急性呼吸器感染症(ARI)		7,564	224.35		11	突発性発しん		20	0.94	
2	インフルエンザ		65	1.91		12	ヘルパンギーナ		30	1.42	
3	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)		71	2.09		13	流行性耳下腺炎		1	0.05	
4	RSウイルス感染症		30	1.43		14	急性出血性結膜炎		-	-	
5	咽頭結膜熱		23	1.09		15	流行性角結膜炎		18	2.25	
6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		232	11.04		16	細菌性髄膜炎		-	-	
7	感染性胃腸炎		463	22.05		17	無菌性髄膜炎		-	-	
8	水痘		30	1.43		18	マイコプラズマ肺炎		5	0.84	
9	手足口病		8	0.39		19	クラミジア肺炎		-	-	
10	伝染性紅斑		3	0.15		20	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		-	-	

2. 月報対象(4月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症		34	3.78
2	性器ヘルペスウイルス感染症		7	0.78
3	尖圭コンジローマ		5	0.56
4	淋菌感染症		8	0.89
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		16	2.67
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		-	-
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減		
前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(令和8年4月分)

第15週～第18週(4月6日～5月3日)報告分

類型	疾患名	広島市		全国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ベスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	9	48	1,194	4,688
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-	
三類	15 コレラ	-	-	-	-
	16 細菌性赤痢	-	-	4	28
	17 腸管出血性大腸菌感染症	4	23	221	666
	18 腸チフス	-	-	5	11
	19 パラチフス	-	-	-	5
四類	20 E型肝炎	1	1	60	231
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	-	1	21	72
	23 エキノコックス症	-	-	2	6
	24 エムボックス	-	-	14	49
	25 黄熱	-	-	-	-
	26 オウム病	-	-	-	1
	27 オムスク出血熱	-	-	-	-
	28 回帰熱	-	-	-	-
	29 キャサヌル森林病	-	-	-	-
	30 Q熱	-	-	-	-
	31 狂犬病	-	-	-	-
	32 コクシジオイデス症	-	-	1	2
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	-	22	29
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	-	-
	40 つつが虫病	-	-	9	43
	41 デング熱	-	-	4	28
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	-	-	30	37
	46 日本脳炎	-	-	1	2
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	-	-
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ポツリヌス症	-	-	-	-
	55 マラリア	-	-	3	13
	56 野兎病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	-	-
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	-	-
	61 レジオネラ症	2	6	136	571
	62 レプトスピラ症	-	-	-	3
63 ロッキーマウンテン山紅斑熱	-	-	-	-	
五類	64 アメーバ赤痢	-	4	35	163
	65 ウイルス性肝炎	1	2	15	66
	66 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	-	2	70	333
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	2	8
	68 急性脳炎	-	4	28	155
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	1	4
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	17	60
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	5	95	514
	72 後天性免疫不全症候群	-	1	67	297
	73 ジアルジア症	-	-	3	12
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	43	186
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	6	22
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	1	10	248	1,128
	77 水痘(入院例に限る。)	-	-	66	259
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	-
	79 多剤耐性緑膿菌感染症	-	-	30	30
	80 梅毒	12	37	939	3,706
	81 播種性クリプトコックス症	1	1	14	67
	82 破傷風	-	1	13	31
	83 パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	84 パンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	1	10	33
	85 百日咳	3	20	432	2,651
	86 風しん	-	-	-	1
	87 麻しん	-	1	226	462
	88 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	6